

ふじみサラダボール子育て情報

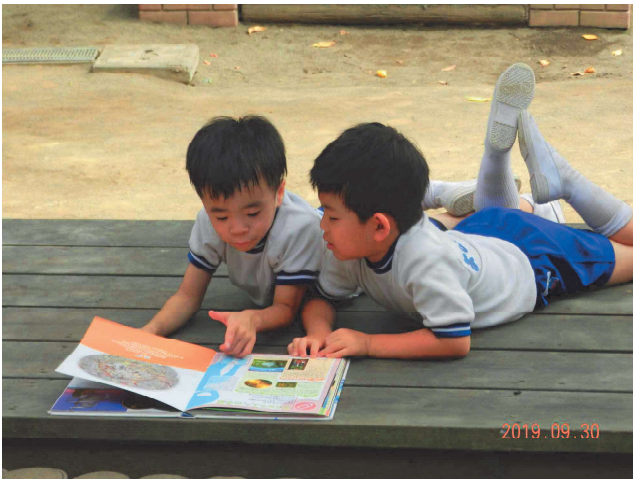


「遊びは知の源泉」
令和元年10月23日号
板橋富士見幼稚園



多様性は知を育む 色々なもので沢山遊んだ子どもは知が高い

乳幼児期から子どもに大人たちが問いかけることで、言葉が豊かになるといわれています。しかし、むやみに言葉を掛けるのではなく、状況を見て子どもが気づかないことなどに言葉掛けしてあげることが大切です。



人は、言葉掛けされると、瞬時に考えだします。まして、子どもが気づかないことを気づかせる言葉掛けは、強い衝撃が走り、好奇心や探求心、興味、関心などが喚起され、試行や判断の回路が思いめぐります。

指示や、命令ではなく、「気づかせる言葉掛け」が鍵となります。

同じく、モノを豊富に与えたり、様々な経験をさせたりすることにも同じことが言えるでしょう。モノを介して遊ぶ経験は、人を繋ぎ、モノの仕組みや、遊びのイメージを生み出します。こうした行為は、常に多様な体験が積み上がり、言葉と同じく試行や判断、記憶が思いめぐり、知を育てます。

幼児期の多様な体験やモノとの出会いは知の源泉といわれ、出会うたびに考え、イメージし、思考を巡らせていきます。この経験によって自分には何ができるのか、自己の価値づけを学び、どんな人なのか、自分の特異性を見出していくのです。また沢山遊び込んだ人ほど、知が高く大成するといわれます。

子どもの自発主体的行動を保障してあげることが大切に育てていきましょう。次回は躰についてお伝えします。

URL:<http://www.homepage2.nifty.com/itabashi-fujimi/>

E-Mail address:itabashi-fujimi-yochien@mbh.nifty.com